

第7回 閃★カーニバル

場所:甲府「桜座」
〒400-0032
山梨県甲府市中央1-1-7 電話055-233-2031
<http://www.sakuraza.jp/>

2015年
7月
24日(土)
18時30分開場
19時開演

出演:
友川カズキ
アガシア+日向正親+山口寧+深澤英樹+小田切隼
入場料:前売り3000円 当日3500円

予約:ホームページ
<http://atemzeit.fem.jp/gt/>
こちらのメールフォーム(スマートフォンの方は
[Desktop]表示後)に「お名前、枚数、電話番号」を明記
または 桜座 055-233-2031



日本でさきやかってしまうのか? 来じ假面上映会
主催: The Crazy Rider Ghost Temple Rolling Special

雪 中 感 悟 第 六 感



第7回 閃★カーニバル 友川カズキを迎えて

友川カズキ 略歴

詩人・歌手・画家・競輪愛好家・エッセイスト・俳優・酒豪・表現者。
真に自立して生きることが忘れがちな現代にあって、無頼詩人のロマンを奇跡的に体現するアーティスト。

少年時代・・・中原中也との出会い

1950年2月16日、秋田県山本郡八竜村（現・三種町）生まれ。本名・及位典司（のぞき・てんじ）。
河口に八郎湯が待ち受ける三種川の自然に囲まれながら、祖父母の手によって育てられた。
鶴川中学校（現・八竜中学校）時代は勉強嫌いで文学にも無縁だったが、図書館で偶然目にした中原中也の詩『骨』に衝撃を受け、自身も詩作を開始する。
中学卒業後、バスケットボールの名門、能代工業高校へ進学、バスケットボール部のマネージャーを務めながら太宰治や小林秀雄などの文学書を乱読する。（バスケットボールのコーチも務め、のちのオリンピック日本代表選手を育てた人物としても知られる。）

「友川かずき」の誕生・・・1970年代

1970年代初め、日本では、ボブディラン等の影響でフォークソングが一大ムーブメントとなっていた。
友川も影響を受け自身もアコースティック・ギターを独習し、それまで書きためてきた詩に曲をつけて歌い始める。
1975年ファーストアルバム『やっと一枚目』をリリース、念願のデビューを果たす。
その後、日本の反体制ロックバンド、頭脳警察のメンバーとなり合う。特にバーカッショニストの石塚俊明と意気投合し、以後彼は重要な音楽的パートナーとなる。
1970年代後半には、劇団と深くかかわるようになり、劇中歌を担当したばかりでなく、俳優として舞台に上ることもあったという。また、さらなる表現活動の場を求め、絵画にのめり込んだ時期でもあった。

「画家・友川カズキ」の誕生

1985年、東京にて、初の個展を開く。美術評論家・ヨシダ・ヨシエに認められた結果だった。
以後、全国各地で精力的に個展を開き、中上健次（作家）、福島泰樹（歌人）ら多数の芸術家、文化人から惜しみない賛辞を浴びることになる。

PSFレコードへの登場

1993年、前衛音楽やサイケデリック・ロック等の代表的なレーベル、PSFレコードから『花々の過失』をリリースすると、現代音楽の作曲家・三枝成彰に絶賛されたことも手伝ってか、それまでの廃盤が嘘のようにまたたく間に再プレスを記録。以後、同レーベルから着実にCDをリリースしていくことになる。
特にフリー・ジャズのミュージシャンとのコラボレーション『まほろしと遊ぶ』（1994年発表）は新境地を開いた作品として注目された。
また、音楽以外の代表的な作品に詩集『地の独奏』、絵本『青空』（文・立松和平／絵・友川かずき）、エッセイ集『天穴の風』などがある。

映画音楽、そして海外公演へと活動の幅を広げる

2004年には、幕末時代の殺し屋・岡田以蔵をモチーフに、過去・未来を通じ、時間を超越した殺戮を繰り広げる様を描く三池崇史監督のカルト映画『IZO』にも出演。主人公の内面を象徴する歌手役として、劇中で5曲を歌う。また、2005年には若松孝二監督の『17歳の風景』の音楽を担当するなど映画音楽の分野にも活動の幅を広げている。
音楽活動もPSFレコードに移籍以来、1年に1作の割合でコンスタントにCDをリリース。
2000年代からは海外でもその評判が高まり、スコットランド、ベルギー、イス、フランス、韓国など各地で公演をおこなう。

2009年にフランス人映像作家ヴィンセント・ムーンによる友川カズキのドキュメンタリー映画「花々の過失」が製作され、同年この映画はコペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭の「音と映像部門」で最優秀賞を受賞し、友川の名がヨーロッパのアート人の間で知られることになる。映画は2010年日本でも劇場公開された。

彼の作品は特に芸術家や文化人、マニアの間で人気が高いが、そのことは一般の人々には受け入れ難いということを意味していない。それは表現者としての潔癖な生き方が現象として現れた皮肉な結果なのであり、その作品が歳を重ねるごとに美しく透明に洗練されていくさまは、今後ますます多くの人々に自分が自分で続けるための勇気を与えていくにちがいない。

「アカシア+日向正親+山口学+深澤英樹+小田切佳仁」略歴

望月兄弟による、ディジュリドゥとギターによる即興を中心としたDUOがアカシア。アカシアが声を掛け集まつたのが二人のドライバーである日向と山口で、これまで3度、アカシアとライブを行っている。今回は、更にアカシアのハードコア時代の盟友である深澤英樹、また打楽器奏者の小田切佳仁を加え、四台のドラムを引き連れ、友川カズキを迎える。

望月正人（ディジュリドゥ）

1972年山梨生まれ。
オーストラリアの先住民、アボリジニの楽器ディジュリドゥの演奏者。2003年、ディジュリドゥの演奏を始める。2009年、improvisationバンドをスタート。田中沢／坂田明と共に。2010年、「アカシア」結成。世界初のディジュリドゥで構成されたオーケストラに出演。2012年、玉井康成氏（ダンサー）と6時間半の即興DUOライブ。新宿ピットイン梅津和時3DAYSライブに出演。新潟県「水と土の芸術祭」に出演など。

望月隼人（ギター）

山梨県南アルプス市生まれ東京都在住、
ギタリスト、1998年にハードコアバンドBLEED FOR PAINを結成、ファーストアルバム「鄙鄧の夢」をリリースと同時にDS-13(Sweden)のJAPANツアーのサポートを勤めた直後活動休止、その後いくつかのバンド、個人活動を経て2010年頃からインプロヴィゼーションDUO、アカシアでの活動も開始、2014年に右手小指を切断するもリハビリを続けながらマイベースに活動再開。

日向正親（ドラム）

1970年、甲府市生まれ。
1997年大阪芸術大学卒。大阪の世界最古・最長寿のスカムバンド「ウルトラファッカーズ」の母体バンド「ゴッドキル」、堀内幹や赤大ヒデオとの「ざくろ」を経て、キネマ旬報社刊「フィルムメーカーズ」シリーズ等の編集に携わる。2011年、インプロヴィゼーションバンド「アカシア」とのライブで音楽活動再開。9月、写真処女個展「fuck」を甲府・富雪ギャラリーにて開催、12月、内田裕也主催「NEW YEAR WORLD ROCK FESTIVAL2011」公式パンフレットに写真採用。2012年度アサヒカメラ賞年度賞（カラープリント部2位）受賞。甲府・桜座での映画上映イベント「閃★カーニバル（モンスター・カーニバル）」を開催するGhost Temple主宰。

山口学（ドラム）

LFB

深澤英樹（ドラム）

1979年山梨県は南アルプスの麓、鷹沢町（カジカザワチョウ）大法師山（オオボシヤマ）で生まれる。15歳で交響曲「大法師山」を作曲し、ラジカセで録音。一部で高い評価を受けるが、未発表。
「SOUND LIKE SHIT」、「SCUM」、「BLEED FOR PAIN」等のノイズパンクBANDで活動。25歳でドロップアウトし、約10年にわたり、ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアを中心に、ロックバンドで旅して回る。35歳で本当にくだらない理由でバンドを辞める。現在は、名曲喫茶をどこかでやろうと計画中…

小田切佳仁（ドラム）

1976年甲府市生まれ。
打楽器奏者、音楽療法士yoshiakiのドラマー（1998年～）「ボエトリーリーディングとノイズや独特なサウンドカラーを母体としたバンド」THEN（2002年～）のパーカッション、ピアノを担当、マサイ族の唄等を始め、様々な場所で録音されたフィールドレコーディングによるサウンドを軸に、インプロヴィゼーションで音を構築、物語性や描写風景を重視した表現を追求し続けている。